

# F/T12

FESTIVAL/TOKYO



東京文化発信  
プロジェクト

たった一人の中庭 /

ジャン・ミシェル・ブリュイエール / LFKs

Le Préau d'un Seul / Jean Michel Bruyère / LFKs

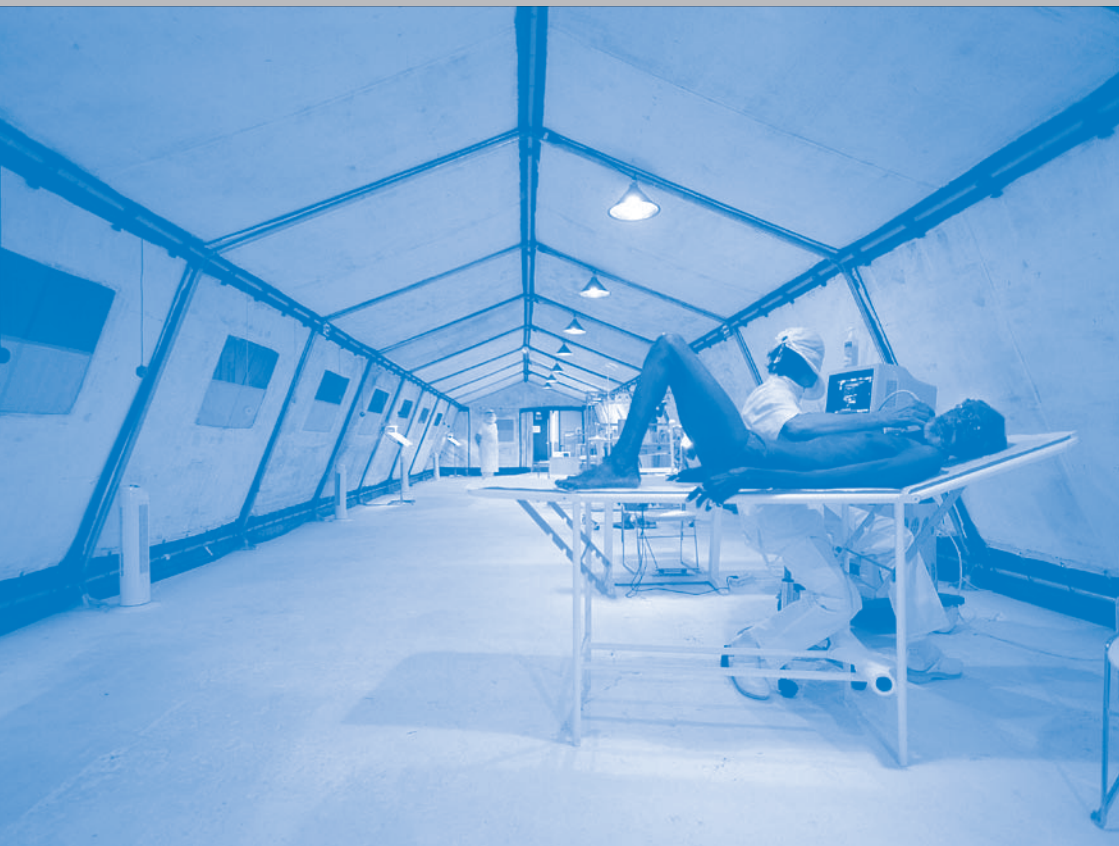
10/27 (Sat) - 11/4 (Sun)

にしすがも創造舎

Nishi-Sugamo Arts Factory



2020年オリンピック・  
パラリンピックを日本で!



## 異例の事態における外国人送還に関する指令(国家警察総局)

1. 付添人は、膝で《送還者》の前腕を押さえつけている。
2. もう一方の足は、体がぐらつかないように支えとなっている。



# これからの時代の新しいキャンプ

ジャン・ミシェル・ブリュイエール

今この瞬間にも、37000人以上の人々が、辺境にまでおよぶヨーロッパ全域に点在する300カ所のキャンプに隔離されている。彼らは、罪を犯したわけでも判決を下されたわけでもない。それ以外にも大人数で隔離された場所に住む人々はある。アメリカやオーストラリアなどでも同様のことが起きている。今日、西洋の国々に、かつてなかったほどの数のキャンプが存在していることは明白だ。にもかかわらず、「キャンプはもはや現代にそぐわない様式だ」と私たちは諭されるばかりである。これからの時代に相応しい次なる形の、〈真逆のキャンプ〉が構築されることになるだろう。それは自由があるキャンプ、〈人権〉があるキャンプだ。

これからの時代のキャンプでは、収監する側の方が、収監される人々より抑圧されていると見なされる。これからの時代のキャンプは、解決策を提示しているようには見え、ましてや、前世紀後半でそうであったように、その存在を唯一の解決策だと思わせることはない。にもかかわらず、そうしたキャンプは今日も存在し、日々その数を増やしている。私たち一人ひとりがキャンプの不穏当さにあまりにもなじんでしまっていること。これこそが、まさに、キャンプの誤用が繰り返される原因だ。このようなキャンプの存在に対して私たちが表す強い悲しみは、私たち自身がキャンプに対し、全く責任を負っていないことの証左だ。実際に責任を負うべき有責者たちが、私たちに罪なき人々を動物のように囲い込むよう強いたのだ。これからの時代のキャンプは、私たちの意に反するものではなく、2種類の特別な個人から身を守るためのものとなる。2種類の特別な個人とは、第一に、人権を持つことを拒否する者：テロリスト、原理主義者(少

なくともイスラム原理主義者)、革命家などを指す。そして第二に、無限に存在する、自身の人権を優先することが困難だと見受けられるすべての者、貧困に苦しみ、物質的な貧困に苛まれ、本来手放すことができない権利を思いきって放棄して出生国を去り、社会的権利(健康権、労働権、教育権など)を手に入れるというたった一つの目的のために不法入国する外国人のことである。その権利は、すべてをよりよくするために、私たちが全世界に広まることを望んでやまない〈人権〉のもとで保障されるにもかかわらず。

感覚も価値観も失い、個人の平和や幸福や快適さ、そして生き延びるための個人的な企てよりも重要なものがあることに理解を示すことができなくなっている——そんな男性や女性や子供が、訴訟もなく、判決も下されずに隔離されていくことを私たちは決して望んではない。

もしこれまでのキャンプ内で徹底的に剥奪されていた基本的人権を回復する手助けにならないのであれば、どうして彼らをこれからの時代のキャンプに引き止めて置く必要があるだろうか。

(翻訳：吉崎香央里)

ジャン・ミシェル・ブリュイエール：

演出家、映画監督、写真家、造形芸術家、グラフィックアーティスト  
1959年生まれ。90年頃、アーティスト集団 LFKs を設立し、マルセイユのタバコ工場を改装した巨大文化施設“La Friche La Belle de Mai(ラ・フリッシュ ラ・ベル・ドゥ・メ)”を拠点に、国際的な活動を続けている。LFKsのメンバーには、テキストを創作する哲学者・作家のジャン＝ポール・クルニエ、作曲家のティエリー・アレドンド、セネガルの詩人で本作の主役でもあるイッサ・サムブラがおり、学術的で領域横断的な思考空間を共に創造し、現代社会や既成概念への鋭い問いを投げかけている。

## 収容所・演劇・人間 『たった一人の中庭』をめぐる

藤井慎太郎(早稲田大学文学学術院教授)

1959年にフランスに生まれたジャン・ミシェル・ブリュイエールは、1990年から2006年までの長きにわたって、セネガルの首都ダカールを拠点として活動していた、それだけでも異色といつてよいアーティストである。さらに、映像作家、作家、美術家、演出家、写真家、グラフィック・デザイナーなど複数の顔を持ち、分類しがたく、謎の多いアーティストである。LFksというこれもいささか謎めいた集団の名は、Lafabriksを略したもので(そもそものla fabriqueとは「製作所」「生産現場」などを意味する語だが、1920年代のソ連の前衛パフォーマンス集団 FEKSにも目配せしたものだという)、複数の領域にまたがる人材(アーティスト、デザイナー、俳優、作家、哲学者……)の集合体である。パリを中心として組織されたフランスの公共劇場制度からは相当の距離をとりつつ(ブリュイエールは政府から直接に助成金を受けることを信条として拒んでいる)、主にフェスティバル(とりわけ2002年、2004年、2005年、2009年、2011年と正式参加したアヴィニョン演劇祭や2012年のエクサン・プロヴァンス音楽祭)において、領域横断的な作品を発表してきた。フェスティバル/トーキョーで上演される『たった一人の中庭』は、そもそもは2008年から2010年にかけて、ベルリン世界文化会館、アヴィニョ

ン演劇祭、リンツ欧州文化首都、ドゥ・シングル(アントワープ)などにおいて発表された作品を、東京という都市、にしがも創造舎という場のために再創造したものである。

私自身、アヴィニョン演劇祭において、かつて鏡を製造していた町工場で2009年に「上演」された『たった一人の中庭』に、幸運にも立ち会うことができた(2011年のアヴィニョン演劇祭の正式演目に加わっていた『息子の放浪』も、女神ディアナの水浴みを覗き見たことで、鹿に変えられ、自分の猟犬に食い殺されたアクテオンを導きの糸として、禁じられた視線をめぐる、すぐれて演劇的なこれまでの創造活動の総集編ともいえるインスタレーションであった)。その記憶をたどりながら、『たった一人の中庭』についてふれてみたい。不快なほどに暑くて息苦しい会場に入ると(南仏の容赦ない日差しのせいであって、作品が意図したところではなかったのかもしれないが)、床に書きつけられた“choisir son camp”という言葉がすぐに目にする。これが『たった一人の中庭』の中心的な主題である。それは、文字通りには「自らの宿营地(キャンプ)・陣営を選ぶ」、そこから「どちらにつくのか自分の立場をはっきりさせる」ことを意味するように

なったフランス語の慣用表現であるのだが、問題はこのcampがかつての強制収容所、今日の難民収容所のことであり、今日の社会の見えない核をなしていることなのだ。

あるところでは、アクション・ペインティングを思わせもする巨大な抽象絵画がまさにつくり出されている現場に私たちは立ち会う。だが血のような赤と汚物のような黒の塗料を用いて絵を生み出しているのは人間ではなく、先端にスポンジをつけた1本の電動アームである(この機械自体が「彫刻」である)。別の部屋では、20台ほどの医療用と思われる電動ベッドが、患者も不在のままに整然と一列に並べられ、一斉にその面を上下させ、奇妙なダンスを繰り広げる。無意識や偶然性を導入し、芸術家の主観性や権威を排除することに努めてきた20世紀以降の現代芸術の皮肉な到達点を表すかのように。ようやく目にする人間の姿も、裸でベッドに横たわっているやせ細った黒人男性、ロボットのように彼を「診察」する白衣とマスクをまとった人間、あるいはシュレッターの紙くずから作ったような、かぶり物をまとして観客には理解不能な会話を交わす人間(註1)など、およそ人間的ではない人間たちである。

現代社会は、異質なものの存在を許容せず、抑圧し、隔離し、不可視化し、ついには抹殺しようとしてきたその過去から、本質的には変化していないのではないかと政治的には収容所、医学的には隔離・無菌状態、芸術的には脱人間化された作品が、あいかわらず必要とされ、究極においては理想とされ続けているのではないかとここで収容所と呼ばれる隔離と不可視化の装置が指示しているのは、私たちの社会における例外的領域では決してなく、逆に社会を社会として成り立たせている構成原理そのものなのではないかと私たちの自由で民主的で人間的な社会は、収容所の礎の上に(あるいはその中に)、人間性を奪われた人々の沈黙の上に、築かれているのではないかとならばそのとき私たちは、芸術は、演劇は、どの陣営／収容所を選べばよいのだろうか？ これは、私たちすべてに突きつけられた問いである。

(註1) 2009年の上演時の演出です。

(註2) 本稿はF/T12プレスリリースおよびウェブサイトの原稿に一部加筆したものです。

## フランスの移民政策

フランスの移民の受け入れは、19世紀後半から始まった。当時のフランスは、出生率の低下に加え、第一次世界大戦による著しい人口の減少に悩まされており、近代化が進む工業の発展のためにも移民労働者の受け入れは必要だった。第二次世界大戦後も安価な労働力を求める気運は変わらず、特に「栄光の30年」(1945～75年)と呼ばれた経済成長期には、スペインやポルトガル、北西アフリカ諸国(特にアルジェリア)から大量の移民が集まり、炭鉱や自動車工場などで働いていた。

だが、74年、当時のジスカール・デスタン政権は突如、国境の閉鎖と就労目的の新規移民の一時受け入れ停止を決定する。その背景には、前年のオイルショックによる経済不況だけでなく、低賃金で過酷な労働が移民労働者の職場として固定化してしまったこと、居住地域のスラム化といった問題があった。1976年には志願者全員に1万フラン(約20万円)の奨励金を支給し、本国への帰国を促す帰国奨励政策もスタート。だが、労働のための再入国の禁止は、かえって移民の定住化を促進したうえ、家族を呼び寄せる者も少なくなく、フランスにおける外国出身者の人口が劇的に減少することはなかった。

そのような状況が続く中、政府は外国人の入国・在留管理の厳格化に加え、すでに入国した移民の社会統合政策にも注力していく。2005年には新規移民を対象にした受入統合契約制度を開始、フランス語研修や公民教育研修を義務づけた。だが、共和国の理念でもある公共

空間における非宗教性と移民の宗教習慣との対立\*が世界的に注目されるなど、移民をめぐる摩擦は絶えない。

自由と平等を基本原則とするフランスでは、本来、出自にかかわる差別は最大限忌避される。実際、出自の違いを前提にした社会政策はもちろん、出身国等にかかわる統計でさえこの国では歓迎されないという。だがそれらはすべて、フランスという「国家」への積極的帰属を前提にしている。移民をめぐる諸問題は、こうした原理原則と、特定の宗教、言語などに紐づく独自のコミュニティの中で生きようとする人々との対立から起こるものであり、そこには「平等」が「同化」に反転していく様子が見てとれる。

08年、厳格な移民選抜政策を推し進めるサルコジ前大統領のもと、フランス政府は移住希望者の73%もの人々の定住を拒否。その結果、多数の行き場のなくなった人々が、「移民キャンプ」に収容される事態が起こった。こうして抑圧された移民たちは、裁判によって守られることなく、留置・拘留を余儀なくされ、現在も人権を無視した劣悪な環境にさらされている。さらに09年、政府は「2万7千人の非正規滞在外国人を国外追放する」と宣言。移民をめぐる状況は厳しさを増している。

\* 2011年4月に施行されたブルカ禁止法では、ムスリムの女性が顔を覆うブルカ、ニカブの着用が禁じられている。

出演 / スタッフ: ティエリー・アレドンド、ゴー・バ、ハネス・ブラウン、マルティン・ブルノット、ジル・ブリュイエール、ジャン・ミシェル・ブリュイエール、リザール・キャステリ、ジャン＝ポール・クルニエ、フローランス・ドラジュスラー、ナディヌ・フェブル、ジアニ・グレゴリ・フォルネ、バルテルミー・ロビン、ヴァンサン・ロビュシグ、イッサ・サムブ、シャルル＝エドワール・ド・スルヴィール、デルフィヌ・ヴァラス

#### 製作: LFKs/EPIDEMIC

共同製作: アヴィニョン演劇祭、デ・シングル(アントワープ)、ベルリン世界文化の家、リンツ09(2009年欧州文化首都)、EZK・ヘレラウ(ドレスデン)、システム・フリッシュ劇場(マルセイユ)

協力: ゲットサウンド(パリ)、BNPパリバ財団(パリ)、アコムクス(ブリュッセル、ロンドン)

助成: バリ国立演劇センター

#### 東京公演

出演: 田中佑弥

石橋里美、岩崎晃太郎、大塚祐樹、萩原綾、片上由美子、川島悠也、熊倉優子、Kelly、菅原有紗、鈴木啓史、田中有子、田中有希、種橋麻里、寺尾梓、得丸久文、戸谷絵里、中山有子、橋本和加子、浜田あゆみ、春原由果、平口美雨、古木健、ますだいつこう、松嶋瑠奈、三鈴泰正、宮内結、村上雅宣、山崎美穂、エイジレオンリー

技術監督: 寅川英司+鴉星

技術監督アシスタント: 河野千鶴

舞台監督: ラング・クレイグヒル

演出部: 本多桜、十万亜紀子

美術コーディネーター: 福島奈史花

小道具コーディネーター: 栗山佳代子

大道具コーディネーター: 渡部景介

照明コーディネーター: 佐々木真喜子(株式会社ファクター)、木下尚己(株式会社ファクター)

音響コーディネーター: 相川 晶(有限会社サウンドウィーズ)

通訳: 金森小百合

記録写真: 片岡陽太

記録映像: ドリル

協力: 藤井慎太郎、高森和巳、藤原敏史、中野成樹+フランケンズ

#### F/T スタッフ

制作統括: 武田知也、小島寛大

制作: 戸田史子

制作アシスタント: 中山亜以、坂井洋子、長尾芽生、堀切梨奈子

フロント運営: 会沢ナオト、砂川史織

インターン: 吉崎香央里

プログラム・ディレクター: 相馬千秋

助成: 在日フランス大使館

主催: フェスティバル/トーキョー



With: Thierry Arredondo, Goo Bâ, Hannes Braun, Martine Brunott, Gilles Bruyère, Jean Michel Bruyère, Richard Castellii, Jean-Paul Curnier, Florence Drachser, Nadine Febvre, Gianni Grégory Fornet, Barthélemy Robino, Vincent Robishung, Issa Samb, Charles-Edouard de Surville, Delphine Varas

#### Produced by LFKs / EPIDEMIC

Co-Produced by Festival d'Avignon, deSingel (Antwerpen), Haus der Kulturen der Welt (Berlin), LINZ 09 (Capitale Culturelle Européenne 2009), EZK-Hellerau (Dresden), Système Friche Théâtre (Marseille)

In co-operation with: GetSound (Paris), Fondation BNP-Paribas (Paris), Acomex (Bruxelles & London)

Supported by: Centre national du théâtre (CNT) (Paris)

#### Tokyo Performance

With: Yuya Tanaka

Satomi Ishibashi, Kotaro Iwasaki, Yuki Otsuka, Aya Ogiwara, Yumiko Katakami, Yuya Kawashima, Yuko Kumakura, Kelly, Arisa Sugawara, Keishi Suzuki, Yuko Tanaka, Yuki Tanaka, Mari Tanehashi, Azusa Terao, Kumon Tokumaru, Eri Toya, Yuko Nakayama, Wakako Hashimoto, Ayumi Hamada, Yuka Haruhara, Miu Hiraguchi, Takeshi Furuki, Ikko Masuda, Runa Matsushima, Yasumasa Mitsuru, Yui Miyauchi, Masanobu Murakami, Miho Yamazaki, Eiji Leon Lee

Technical Manager: Eiji Torakawa + Karasuya

Assistant Technical Manager: Chizuru Kono

Stage Manager: Lang Craighill

Stage Assistant: Sakura Honda, Akiko Julian

Stage Design Co-ordination: Naoka Fukushima

Props Co-ordination: Kayoko Kuriyama

Stage Set Co-ordination: Keisuke Watanabe

Lighting Co-ordination: Makiko Sasaki (Factor Co., Ltd.), Naomi Kinoshita (Factor Co., Ltd.)

Sound Co-ordination: Akira Aikawa (Sound Weeds Inc.)

Translator: Sayuri Kanamori

Photo: Yohta Kataoka

Video: Drill

Cooperation: Shintaro Fujii, Kazumi Takakuwa, Toshifumi Fujiwara, Shigeki NAKANO + Frankens

Production Manager: Tomoya Takeda, Hirotomoto Kojima

Production Co-ordinator: Fumiko Toda

Assitant Production Co-ordinator: Ai Nakayama, Yoko Sakai, Mei Nagao, Rinako Horikiri

Front: Naoto Aizawa, Shiori Sunagawa

Trainee: Kaori Yoshizaki

Program Director: Chiaki Soma

Supported by: Ambassade de France au Japon

Presented by: Festival/Tokyo

## フェスティバル/トーキョー組織委員

### Festival/Tokyo Organization Committee

天牛大生	振付家、演出家
萩田伍	アサヒグループホールディングス株式会社代表取締役会長兼 CEO
扇田昭彦	演劇評論家
永井多恵子	社団法人国際演劇協会 (ITI/UNESCO) 日本センター会長
鶴川希雄	演出家
野田秀雄	演出家
野村高雄	経営者
福原義春	株式会社資生堂 名誉会長 (五十音順)
Ushio Amagatsu Hitoshi Ogita Akihiko Senda Takao Nagai Yuko Ninagawa Hidetoshi Noda Man Nomura Yoshihara Fukushima	Choreographer, Director Chairman and Representative Director, Chief Executive Officer, Asahi Group Holdings, Ltd. Theatre critic Chairman, Japanese Centre of International Theatre Institute (ITI/UNESCO) Director Director Kyogen actor Executive Chairman, Shiseido Co., Ltd.

主催：フェスティバル/トーキョー実行委員会  
東京都、豊島区、  
東京文化発信プロジェクト室、東京芸術劇場、公益財団法人東京都歴史文化財団、  
公益財団法人としま未来文化財団、NPO法人アートネットワーク・ジャパン

Organized by Festival/Tokyo Executive Committee  
Tokyo Metropolitan Government, Toshima City, Tokyo Culture Creation Project & Tokyo Metropolitan Theatre (Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture), Toshima Future Culture Foundation, Arts Network Japan (NPO-ANJ)

主催：社団法人国際演劇協会 (ITI/UNESCO) 日本センター

Produced in association with Japanese Centre of International Theatre Institute (ITI/UNESCO)

協賛：アサヒビール株式会社、株式会社資生堂

Sponsored by Asahi Breweries, Ltd., Shiseido Co., Ltd.

助成：公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団

Supported by Asahi Group Arts Foundation

後援：外務省、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会

Endorsed by Ministry of Foreign Affairs, GEIDANKYO

特別協力：西武池袋本店、東武百貨店池袋店、サンシャインシティプリンスホテル、  
ホテルメトロポリタン、ホテルグランドシティ、チノコト株式会社、株式会社白水土社

Special co-operation from SEIBU HIKUJIKUONDEN, TOBU DEPARTMENT STORE HESKURUI, Sunshine City Prince Hotel, Hotel Metropolitan Tokyo, Hotel Grand City, Chacott Co., Ltd., Hakushisha Publishing Co., Ltd.

協力：東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、

豊島区観光協会、社団法人豊島産業協会、公益社団法人豊島法人会

In co-operation with The Tokyo Chamber of Commerce and Industry Toshima, Toshima City Shopping Street Federation, Toshima City Federation, Toshima City Tourism Association, Toshima Industry Association, Toshima Corporation Association

宣伝協力：株式会社ポスターハリス・カンパニー、

有限会社ネビュラエストラサポート(公募プログラム)

PR Support: Poster/Harris Company, Nebula Extra Support Co., Ltd. (for FT Emerging Artists Program)

メディアパートナー：J-WAVE 81.3FM、新潮、ART iT、CINRA.NET

Media Partners: J-WAVE 81.3FM, SHINCHO, ART iT, CINRA.NET

認定：公益社団法人企業メセナ協議会

Approved by Association for Corporate Support of the Arts

平成24年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

Supported by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan in the fiscal 2012

会期：平成24年(2012年)10月27日(土)～11月25日(日)



FT/Tクルー：会津麻美、青島美和、安達彩、石引康子、一ノ瀬真志、若城孝正、止村康哉、宇都宮千晴、内海さき、遠藤乃乃子、大泉尚子、大貫啓子、大島愛香、岡崎由子、緒方彩乃、岡本光代、岡本佳子、尾澤弥生、小野千尋、加藤真帆、鹿子不直美、金子穂高、川口 潤、木口七海、木下玉美、金セツム、計 智裕、相谷佳美、黒沢友美、小町寛子、齊藤 聖、斎藤絵里佳、滝沢聖梨、滝沢香里、佐藤吉子、齋藤 悠子、柴田知子、鈴木智香子、岡島弥生、高橋悠祐、田中希香、寺本奈津美、照田雅香、岡田 水彩子、中山由紀、西岡行 能戸みな美、畑満富美、初村和美、花田雅美、早川幸菜、林原 菜、人見真央、廣瀬加乃、福原麻梨子、福村 秀、藤原 藍太、船川結菜、増尾 圭、松嶋理奈、中村早絵、本塚雄哉、丸山未來、三橋 正一、関 慧效、矢島 朝、内藤 智、山田布紀、山室木園、山分可子、丹野亜希、吉田由貴、米谷今日子、渡辺 夏

FT/T Crew: Miwa Aizu, Mitsuhiro Aizu, Aya Akashi, Yasuko Ishibiki, Takashi Ichinose, Taito Iwaki, Yasunasa Usugui, Chiaki Utsunomiya, Chiaki Utsunomiya, Noriko Ozeki, Ozumi Naoko, Keiko Oga, Aika Omichi, Yuko Okazaki, Ayano Ogata, Mitsuyo Okamoto, Yoshiko Okamoto, Yoyo Otawo, Chihiro Ono, Maho Rato, Naomi Kanakubo, Joey Kaneko, Akane Kawaguchi, Nanami Kiyochi, Tamami Kurokawa, Saorin Kim, Chiyo Kyo, Yoshimi Kiritani, Tomomi Kurokawa, Hiroko Kazuki, Nozomi Sakaki, Erika Saito, Eri Sakikawa, Yukiko Saito, Kyoko Sato, Mumeo Shimotani, Tomoko Shibata, Chikako Suzuki, Yayoi Sekijima, Yusuke Takahashi, Yuki Tanaka, Natsumi Teramoto, Shizuka Tokumura, Xuru Tota, Sayoko Nagai, Yuko Nakamura, Mimi Nakamura, Yuki Nakayama, Takayuki Nakahiko, Mirami Noji, Fumi Hatase, Kazumi Hatanaka, Masami Hanada, Hanura Hayakawa, Shiori Hayashibara, Mami Hitomi, Kano Hirose, Mariko Fujiwara, Mariko Furumura, Kenta Fujiwara, Yuna Funakawa, Kei Masakawa, Rina Matsushima, Sae Matsumoto, Yoya Matsumoto, Mirai Maruyama, Yasunasa Mizuno, Hyemin Min, Aya Tojima, Suiji Tanaka, Yuki Yanaguchi, Kizono Yamamura, Masashi Yamawaki, Aki Yumino, Yuki Yoshida, Kyoko Yonemitsu, Sara Yamashiro

編集：鈴木理咲子、フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局  
発行：フェスティバル/トーキョー実行委員会  
アートディレクション+デザイン：佐藤直樹+中澤耕平 (ASYU)  
オペレーション：小村 剛  
印刷：アトム株式会社  
発行日：2012年11月2日  
禁無断転載

## フェスティバル/トーキョー実行委員会

### Festival/Tokyo Executive Committee

名誉実行委員長	高野之夫	豊島区長
実行委員長	市村作知雄	NPO法人アートネットワーク・ジャパン 会長
副委員長	吉末昌弘	豊島区文化商工部長
委員	八巻規子	豊島区文化商工部文化デザイン課長
	大沼映雄	公益財団法人としま未来文化財団 常務理事/事務局長
	岸正人	公益財団法人としま未来文化財団 部長
	蓮池奈緒子	NPO法人アートネットワーク・ジャパン 代表
	相馬千秋	NPO法人アートネットワーク・ジャパン プログラム・ディレクター
監事	天貝勝巳	豊島区総務総務課長
法務アドバイザー	榎井健策	北海道弁護士(弁護士法事務所)

Honorary President of the Executive Committee: Yukio Takano, Mayor of Toshima City  
Chairman of the Executive Committee: Sachio Ichimura, Arts Network Japan Director  
Vice Chairman of the Executive Committee: Masahiro Yoshino, Director of Culture, Commerce and Industry Division of Toshima City  
Committee Members: Noriko Yamaki, Culture, Commerce and Industry Division, Director of Cultural Design Section  
Hideo Onuma, Director of Secretary of Toshima Future Culture Foundation  
Masato Kishi, Executive Manager of Toshima Future Culture Foundation  
Naoko Hasegawa, Arts Network Japan Representative  
Chiaki Soma, Arts Network Japan Program Director  
Supervisor: Kazumi Amagai, General Affairs Division, Director of General Affairs Section of Toshima City  
Legal Advisors: Kenzaki Fukui, Hisato Kitazawa (Kotou Dori Law Office)

## フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

### Executive Committee Office

プログラム・ディレクター	相馬千秋
事務局長	蓮池奈緒子
事務局長補佐	小島寛大
制作総括	武田知也
制作	河合千佳、喜友美麻江、小森あや、相山由香、 戸田史子、藤井さゆり
メディア戦略	松本花音
プログラム・リサーチ	クラウハイム・ウルリケ
アジア事業コーディネート	小山ひとみ、李丞孝
票務管理	兵原理江、岡内 淳
チケットセンター	佐々木由美子、佐藤久美子
総務	葦原円花、一色真好
経理	堀久美子
小製作アシスタント	小野塚英夫、砂川史織、田中沙季、野田入涼子、中山亜以
メディア戦略補佐	冠根葉菜
アジア事業コーディネート補佐	吉岡真衣子
インターン	伊藤芽依、小林弘樹、田端俊也、船橋史、吉崎香央里

技術監督	賀川英司
技術監督アシスタント	河野千晴
照明コーディネーター	佐々木真喜子(株式会社フクター)
音響コーディネーター	相馬千秋(有限会社サウンドイース)
アートディレクション+デザイン	アジール(佐藤直樹+中澤耕平+谷藤みづ+穂永明子+菊地昌雄)
ウェブサイト	演田真一+田中裕也(株式会社ロフトワーク)
パブリシティ	平昌子、望月孝宏
海外広報・翻訳	アンドリューズ・ウィリアム
出版	渡辺 淳
編集・執筆	鈴木理咲子
編集・執筆 (TOKYO/SCENE)	影山裕樹

Program Director: Chiaki Soma  
Administrative Director: Naoko Hasegawa  
Assistant Administrative Director: Hirotoono Kojima  
Production Manager: Tomoya Takeda  
Production Co-ordinators: Chikara Orie, Kawai Kiyuna, Aya Komori, Yuka Sugiyama, Fumiko Toda, Sayuri Fujiki  
Ticket Administration: Rie Tagahara, Tsuburo Shihada  
Program Research: Ulrike Krauthim  
Asia Projects Co-ordinators: Hitomi Oyama, Seunghyo Lee  
Technical Administration: Rie Tagahara, Tsuburo Shihada  
Ticket Office: Yumiko Saeki, Kamiko Sato  
Administrators: Madoka Ashihara, Hisayoshi Isshiki  
Accounting: Kamiko Tsutsumi  
Assistant Production Co-ordinators: Chika Onozuka, Shiori Sunagawa, Saki Tanaka, Suzuko Tanohri, Ai Nakayama  
Assistant Media Strategy: Nanana Kanami  
Assistant Asia Projects Co-ordinator: Makiko Sasaki  
Trainers: Mei Ito, Hiroki Kobayashi, Toshiya Tabei, Fumi Funahashi, Kaori Yoshizaki  
Technical Director: Eiji Torikawa  
Assistant Technical Director: Chiyoko Kono  
Lighting Co-ordination: Makiko Sasaki (Factor Co., Ltd.)  
Sound Co-ordination: Akira Akawa (Sound Weeds Inc.)  
Art Direction+Design: Asyil (Naoki Sato + Kouhei Nakazawa + Yoko Tani + Akiko Tokunaga + Masataka Kikuchi)  
Website: Shinichi Hamada + Yoko Tanaka (Ito+Tanaka Inc.)  
Public Relations: Masako Taira, Akhino Mochizuki  
Overseas Public Relations, Translation: William Andrews  
Merchandise: Jun Watanabe  
Editor/Writer: Rieko Suzuki  
Editor/Writer (TOKYO/SCENE): Yuki Kagayama

お問合せ先  
発行：フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局  
〒170-0001  
東京都豊島区西馬込4-9-1 にしながも創造舎 NPO法人アートネットワーク・ジャパン内  
TEL: 03-5961-5202  
HP: http://festival-tokyo.jp/